

## 飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果

- 1 点検及び評価を行った期日 令和5年8月9日（水）、令和5年8月22日（火）
- 2 点検及び評価の会議を行った場所 飛騨市図書館2階 情報発信室
- 3 点検及び評価を行った会議 令和5年8月30日（水） 令和5年 第7回教育委員会定例会
- 4 点検評価委員（7名） 社会教育委員の会委員長、河合小学校学校運営協議会委員、宮川小学校学校運営協議会委員  
飛騨市PTA連合会会長（古川中）、同子育て代表（古川中）、飛騨市文化協会会長、飛騨市スポーツ協会会長

- 5 点検及び評価を行った会議に出席した者  
（飛騨市教育委員会）

教育長 沖畑 康子、 委員 向川原 眞郷、 委員 平澤 千人、 委員 牛丸 洋子

（説明のため出席した飛騨市教育委員会事務局職員）

教育委員会事務局長 野村 賢一、教育総務課長 堀之上 亮一、学校教育課長 上口 淳  
生涯学習課長 古田 善尚、文化振興課長 舟本 智樹、スポーツ振興課長 西田 博和  
教育総務課長補佐 仲島 孝子

- 6 点検及び評価の対象事務 飛騨市教育委員会の権限に属する令和4年度の事務

- 7 点検及び評価の方法

飛騨市教育委員会事務点検評価実施要領（平成21年飛騨市教育委員会訓令第1号）第3条の規定により、飛騨市教育委員会事務局各課が第1次評価した「飛騨市教育委員会事務点検評価資料」により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第2項の規定に基づく飛騨市教育委員会事務点検評価委員会を開催し、教育に関し学識経験を有する者からの意見聴取を行った後、令和5年8月30日開催の令和5年第7回教育委員会定例会において、令和4年度の飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った。

8 飛騨市教育委員会が飛騨市教育委員会事務点検評価委員会に意見聴取を行った期日及び場所

第1回 期日 令和5年8月9日(水)

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

第2回 期日 令和5年8月22日(火)

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

9 飛騨市教育委員会事務点検評価委員会の飛騨市教育委員会に対する意見

飛騨市教育委員会の権限の属する令和4年度事務の点検及び評価については、飛騨市教育委員会事務局各課が行った第1次評価のとおりであることを認める。

10 点検及び評価の結果

別紙「令和5年 飛騨市教育委員会事務点検評価結果」のとおり

# 令和5年 飛騨市教育委員会事務点検評価結果

令和4年度 事務事業点検評価シート

令和4年度 決算に係る主要施策の成果に関する

説明書主要施策成果説明書（教育委員会関係分）

飛騨市教育委員会

令和5年度 事務事業点検評価シート (4年度事業)

【 事務点検評価実施要領第3条 】

担当課	事業番号	事務事業名	頁	評価
教育総務課	①教育総務係	1 教育委員会運営事業	1	A
		2 スクールバス運営事業	2	A
		3 飛騨市育英基金貸付事業	2	A
		4 育英基金貸付生地元就職補助事業	3	A
		5 学校施設整備事業 (神岡小学校大規模改修事業 (第2期))	3	A
	②学校給食係	6 安全・安心な学校給食の提供 地産品を使ったふるさと食育の推進 給食施設の設備更新	4 5 6	B
学校教育課	①学務係 管理指導係	7 飛騨市学園構想の推進	7	A
		8 ICTを効果的に活用した授業づくり	9	A
		9 学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	10	A
		10 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備	11	B
生涯学習課	①生涯学習係 教育振興係	11 社会教育推進事業	12	A
		12 青少年育成推進事業	13	A
		13 家庭教育学級等開催事業	14	A
		14 地域学校協働活動事業	14	A
		15 公民館講座等開催事業	15	B
		16 公民館管理運営事業	16	A
文化振興課	①文化係	17 図書館機能の充実事業	18	A
		18 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業	19	A
		19 地域歴史資源活用事業	22	A
		20 文化芸術振興事業	25	B
		21 文化交流センター管理・運営事業	26	A
スポーツ振興課	①スポーツ振興係 教育振興係	22 スポーツ推進事業	28	B
		23 体育施設管理運営事業	31	A
		24 飛騨市屋内運動場整備事業	32	B
		25 公共施設予約管理システム導入事業	33	A
		26 スキー振興事業	34	A
		27 スケボー&BMXエリア設置事業	35	A

(注) 各欄下段カッコ内は「うち実質一般財源所要額」を示す。 ※以下同様

## 第11 教育委員会事務局

### 1 教育総務課

#### ① 教育総務係

##### 総括事項

飛騨市の教育行政を進めるため、定期的に教育委員会を開催し、教育行政における重要事項や基本方針の決定を行った。教育委員や市内小中学校と連携を図りながら、各学校施設の破損箇所や危険箇所の修繕や学校敷地内の樹木の剪定・伐採など施設の保全に努めるとともに、天候不順による臨時の路線や時間の変更等に対応した安定的なスクールバスの運行に努め、安心して学校活動が送ることが出来るように学校運用及び設備保守の両面にわたって教育環境の充実に取り組んだ。特に学校施設については、令和3年度から2か年に渡る外壁改修を中心とした神岡小学校の大規模改修工事が12月に完了したことに加え、各学校で未整備となっている特別教室を中心とした空調設備の整備計画を策定するなど、より一層学びやすい施設整備に繋がった。

- 1 教育委員会運営事業
- 2 スクールバス運営事業
- 3 飛騨市育英基金貸付事業
- 4 育英基金貸付生地元就職補助事業
- 5 学校施設整備事業（神岡小学校大規模改修事業（第2期））

##### 施策の概要

#### 1 教育委員会運営事業（決算額 1,236千円） 事業番号1 評価 A

教育委員会では教育行政の質の向上を目的に、学校経営をはじめとする様々な教育に関する案件について議論を重ねた。また、事務点検評価委員会では、教育委員会の事務事業の内容について点検・評価をすることで、その結果を令和5年度への施策に繋げる取り組みとなった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
教育委員会運営事業	千円 1,306 (1,306)	千円 1,236 (1,236)	千円 70 (70)	教育委員会の開催 定例会9回（議案30件、承認16件、報告4件 合計50件） 臨時会1回（議案1件） 教育委員会協議会の開催 9回 事務点検評価委員会の開催 2回（8月 審議及び意見聴取、ホームページ掲載）

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額:1,309千円】

教育委員会定例会は年9回、臨時会1回が開催され、教育行政について、各委員による活発な議論が行われた。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が続く中、規模の縮小、行事催行内容の見直しなどを行いつつも可能な範囲で事業が行われた。11月には3年ぶりに海津市において県市町村教育委員会連合会研究総会が開催され、当市の教育委員全員が参加した。10月～11月には市内8校について小中学校の授業を視察する等、教育の現場に出向き、各校の教育状況を実感していただいた。先進地視察については外部へ出向くことを控え、神岡給食センターにおいて給食の調理現場及び試食を行い、神岡小学校の外壁補修工事後の状況を視察した。

令和5年度はコロナ後の新時代の教育環境整備や新たな課題に対する協議や審議を深めるため、様々な協議会や新任教育委員研修会等に積極的に参加して情報の共有を行い、引き続き資質の向上に努める。

## 2 スクールバス運営事業 (決算額 83,595千円)

事業番号2 評価 A

スクールバス運営事業は、新型コロナウイルス感染症対策として引き続き乗車人数が多い路線(古川太江線・信包線、神岡袖川線)については3密を防ぐため複数台数での運行を行った。また、通常の小中学生の登下校だけでなく、学校行事や部活動による目的外使用の運行を行うと共に、天候等による通行規制についても対応した。このほか、学校外活動で利用するフリーバスも県大会や遠方での遠征活動が徐々に復活し、前年度より利用回数が増加した。

今年度更新する予定であった車両更新計画は見直すことが出来なかった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スクールバス運営事業	千円 84,795 (84,795)	千円 83,595 (83,595)	千円 1,200 (1,200)	スクールバス運行委託 82,240千円

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額:94,758千円】

現在18台あるスクールバス車両(ワゴン車含む)について、民間並の更新基準を採用しつつ車両更新計画の見直しを行い令和5年度以降に反映する予定であったが、見直しが遅れており令和5年度に持ち越して早急に計画策定を行う。

児童・生徒の入学・卒業によって変更する乗車場所など、学校側と調整を行い分かりやすい資料作成を行う。

## 3 飛騨市育英基金貸付事業

事業番号3 評価 A

令和5年3月末時点での貸付総額は215,648千円(178件)となった。前年度に引続き償還金が貸付金を上回っているが、償還免除が11件あったため、年度末基金残高は減少している。

貸付対象者拡充のため、平成31年度から対象学校の拡充(大学校等の追加)及び申請時の成績要件を緩和するチャレンジ枠を新設した。

飛騨市育英基金総額 443,506千円(貸付額215,648千円・現金227,859千円)

令和4年度貸付額 24,240千円(41件うち新規9件)

令和4年度償還額 33,688千円(145件)※償還免除決定11名のうち、半額免除7名含む

4 育英基金貸付生地元就職補助事業（決算額 2,265千円） 事業番号4 評価 A

市内事業所等の雇用の確保と定住促進を図るため、従前の要綱に基づいて、平成26年度までに育英基金を貸し付けた者のうち、現在償還中の飛騨市在住者に、「地元就職補助金」として、償還金の一部補助を実施した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
育英基金貸付生 地元就職補助金	2,685 <sup>千円</sup> (0)	2,265 <sup>千円</sup> (0)	420 <sup>千円</sup> (0)	補助対象者 17名（内、完済者7名）

（評価と課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額：1,721千円】

当制度は、地元就職による雇用の確保と若者の定住促進を目的として平成18年度に創設されたが、その方向性に鑑み平成27年度からは「就職奨励金交付事業」として新たに制度化されたため、育英基金からは分離された。ただし、平成26年度までの貸付生は当該制度の対象者であるため、当該貸付生の償還が終了するまで予算の確保が必要である。

5 学校施設整備事業（神岡小学校大規模改修事業（第2期））（決算額 136,144千円） 事業番号5 評価 A

昭和61建築の神岡小学校は、耐震化の必要のない建物であったためこれまで大規模な改修を行ってこなかった。しかし、老朽化により外壁に劣化がみられること、また外壁にアスベストが含まれていることから、安全対策のため外壁改修を工区割りして2か年計画で改修を行うこととした。令和3年度の校舎西側（第1工区）の改修工事を実施し、令和4年度は校舎東側を第2工区として工事を完了した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
神岡小学校大規模改修工事 （第2期）	154,070 (0)	136,144 (0)	17,926 (0)	外壁改修工事一式（アスベスト除去含む） 下水道改修工事

（評価と課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額（令和4年度からの繰越額）：小学校分61,100千円 中学校分48,400千円（工事費及び委託料）】

騒音の発生する工事を夏期休業期間に集中することで、授業に支障なく工事を実施し、放課後児童クラブの利用者に対しても、最大限の安全配慮を行った。また、以前からの懸案事項であった下水道接続工事を大規模改修工事に合わせ夏休み期間中に実施し、学習環境の改善を行った。

令和5年度は各小中学校における空調設備について、未整備となっている特別教室への設置を令和4年度の繰越事業（国庫補助対象事業）として実施しつつ、令和6年度以降の整備についての調査測量設計を行う。

② 学校給食係

総括事項 事業番号6 評価 B

健やかな教育環境を整える中で学校給食の役割は重要であるが、新型コロナウイルス感染症に加えロシアによるウクライナ侵攻の影響から食材が高騰する中、一般会計から給食費特別会計へ食材高騰分を補填し、給食費を値上げしないで給食の量や栄養価の維持を行った。また、ふるさと納税を財源として食材の地産

地消を推進し、地元産の食材を使用したデザートを供給するなど、安全安心な、そして楽しさのある学校給食の安定的な提供に取り組んだ。

- 1 安全・安心な学校給食の提供
- 2 地産品を使ったふるさと食育の推進
- 3 給食施設の設備更新

### 施策の概要

#### 1 安心・安全な学校給食の提供（古川国府給食センター経費：117,664千円、給食センター経費：24,483千円、給食費特別会計：32,898千円）

一般会計では、古川国府給食センター負担金のほか、神岡給食センター、河合給食センター、山之村給食調理場に係る賄材料費以外の経費を経理している。  
給食費特別会計では、古川町以外の市内小中学校、市立保育園給食の一部に係る賄材料費を経理している。

世界情勢の影響による食材高騰・燃料費高騰を受け、古川国府給食センターへの負担金及び給食費特別会計への繰出金による対応を実施し、給食費の値上げを行わずに必要な給食の量や栄養価の維持に努め、燃料費についても施設維持のために補正予算にて対応した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
古川国府給食センター負担金	千円 120,350 (120,350)	千円 117,664 (117,664)	千円 2,686 (2,686)	古川国府給食センター飛騨市実施分 ・古川中学校 給食日数 198日 延べ食数 85,138食 ・古川小学校 " 199日 " 90,940食 ・古川西小学校 " 199日 " 56,812食  食材高騰分：2,400千円  燃料費高騰分：3,575千円
給食費特別会計繰出金	千円 1,410 (1,410)	千円 830 (830)	千円 580 (580)	食材高騰対策（河合、宮川、神岡小、神岡中、山之村小中学校分）520千円 天候の影響などにより休校となった際の食材の経費負担分 310千円 9/20 台風14号の影響（大雨警報） 1/25 寒波の影響（大雪警報）



	千円	千円	千円				
給食費特別会計	35,800 (0)	32,898 (△168)	2,902 (168)	神岡給食センター			
				・神岡小学校給食日数	197日	延べ食数	57,695食
				・神岡中学校	〃	〃	29,748食
				・旭保育園	〃	〃	11,057食
				河合給食センター			
				・河合小学校給食日数	192日	〃	8,215食
				・宮川小学校	〃	〃	2,689食
				山之村給食調理場			
				・山之村小学校給食日数	193日	〃	} 5,719食
				・山之村中学校	〃	〃	

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額 古川国府給食センター経費:123,128千円、給食センター経費:32,726千円、給食費特別会計:35,000千円】

食材が高騰する中、成長期の児童・生徒に健康面に配慮した必要な栄養価や脂肪・塩分の過剰摂取を控えるため、メニューの工夫や調理方法の改善等を行うとともに、アレルギー食への対応など、安全・安心な学校給食の提供を行っている。また、子どもたちに食への関心を持ってもらうため、引き続き栄養教諭等による食育授業を実施していく。

安定した学校給食を提供するためには調理員の確保が重要であるが、市営給食センターは現在、正規職員としての調理員を募集していない。山之村給食調理場は1名、河合給食センターは2名の職員で運営しており、令和4年度は河合給食センターにおいて調理業務を行えなくなった期間が発生し、災害時の非常食による体験給食や古川国府給食センターからの給食提供により対応した。このような場合に備える必要性や、調理員が安心して休暇を取ることができる体制とするために、会計年度任用職員に一定程度の調理業務を行うよう指導し、現状の職員で安定した学校給食が提供できる体制を整備していく。また、古川国府給食センターにおいては、令和3年度から給食調理業務を民間委託に移行しており、市営給食センターとしても今後の運用方法として民間委託も視野に検討を進めていく。

## 2 地産品を使ったふるさと食育の推進 (決算額 9,483千円)

ふるさと納税の活用による「地産品を使ったふるさと食育の推進」により、デザート等に飛騨市産加工品を月に2回程度提供する「ありがとう給食」や、地域食材を積極的に取り入れた給食を提供する「ふるさと学校給食」により、地産品に誇りを感じてもらうとともに、学校に来る楽しみの一助になるよう学校給食メニューの向上を図った。

また、市内全小中学校にて飛騨市産の食材を使った給食を提供する「ふるさと学校給食の日」を設けており、飛騨市農林部食のまちづくり推進課と連携して、市内小中学校の内の1校で農業生産者の方からお仕事の魅力や食材の美味しさなどを語ってもらう食育授業を実施している。令和4年度は山之村小中学校で地元ほうれんそう農家の方からほうれん草生産にまつわる工夫や魅力を語っていただいた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地産品を使ったふるさと食育の推進事業	千円 10,000 (0)	千円 9,483 (0)	千円 517 (0)	ありがとう給食（デザート提供） 延べ81回 5,507千円 ふるさと学校給食（地元食材提供） 延べ101回 3,976千円 「ふるさと学校給食の日」食育授業9/9実施 山之村小中学校 ほうれん草の講話

（評価と課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額:10,000千円】

おいしく喜ばれる給食の提供について関係機関等と連携し、引き続き栄養価のバランスをとりながら、学校給食の質の向上を進めていく。食育の観点からも地産品についての食育授業も継続して行っていく。また、令和5年度は小規模校において「ふるさと学校給食」の一環で有機野菜の給食提供を行うとともに、全小中学校を対象とした農薬不使用米を提供する「オーガニック給食」について農林部食のまちづくり推進課と連携して実施していく。

### 3 給食施設の設備更新（決算額 1,427千円）

食品の安全性の確保及び経年劣化による備品の更新や施設整備の修繕を行っている。令和4年度は各給食センター等の施設修繕や設備保守点検の他に河合給食センターの包丁まな板殺菌庫を更新した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
給食施設の設備更新	千円 2,628 (2,628)	千円 1,427 (1,427)	千円 1,201 (1,201)	河合給食センターボイラー保守点検 110千円 河合給食センター包丁まな板殺菌庫更新 374千円 神岡給食センター 調理場内修繕 759千円 山之村調理場 給湯設備修繕 184千円

（評価と課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額:1,712千円】

厨房機器等については、日々のメンテナンスとともに、早めの修繕や部品交換により衛生上や作業上の安全及び経費の節減に努めているが、保守点検業務を行いつつ長寿命化を図り、計画的な更新を行っていく。

## 2 学校教育課

### ① 学務係・管理指導係

#### 総括事項

飛騨市の学校教育の方針「志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと を育む」の具現に取り組んだ。飛騨市学園ビジョンを踏まえ、「子どもたちにどのような資質・能力を身に付けるのか」を明確にし、指導改善やICT機器の効果的な活用などの授業づくりを進めた。また、学校と家庭・地域の連携・協働によるコミュニティ・スクールや地域学校協働活動を推進した。「未来の創り手像」や「創りたい地域像」を共有し、社会総がかりでの教育活動に取り組んだ。

- 1 飛騨市学園構想の推進
- 2 ICTを効果的に活用した授業づくり
- 3 学習環境・体験活動の充実と指導力の向上
- 4 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備

#### 施策の概要

##### 1 飛騨市学園構想の推進（決算額 5,277千円）

事業番号7 評価 A

飛騨市学園ビジョンを踏まえ、「未来の創り手像：志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと」を育むために、一貫した課題解決型カリキュラムの編成・実施と校種間交流の充実により、その実現を目指す。更に、学校運営協議会や地域学校協働活動を実施し、「創りたい地域像：みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち」を共有し、子どもたちが多様な人とつながりながら「やってみたい」を実現する探究学習を推進する。今年度は、学園構想第1章である3年間の最終年となることから、児童生徒が自ら企画運営し学校や地域全体が協働するプロジェクトの更なる支援や、大学等を含めた校種間連携の推進を図るとともに、教職員のスキルアップと構想全体の参画意識の向上に向けた取組を強化することで、社会総がかりで子どもたちの育成を目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
飛騨市学園構想の推進	千円 6,441 (0)	千円 5,277 (0)	千円 1,164 (0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアチーム会議10回開催、SNSを活用した啓発や説明、広報ひだ連載</li> <li>・校種間連携の推進（中学生思いっきり探究学習in大正大学12/3・4）</li> <li>・まなびみらい会議（8月28日）、飛騨市学園構想報告会（2月24日）</li> </ul>

（評価）

令和4年度は、令和2年度からスタートした学園構想第1章の最終年度となり、3つのビジョン①保小中高特15年間をつなぐ課題解決型学習の実施②コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の実施③校種間交流について、これまでの実践をもとに活動内容の充実を目指した。そのため、コアチーム会議を定期開催し、関係者との情報共有や連携・協働により、着実な歩みを進めた。8月には「まなびみらい会議」をオンラインで開催し、市長による基調提案「大

人が夢中であそぶこと！私の考える、人が育つ地域の未来」を基に、これまでの実践を通じて浮かび上がってきた未来のまちの姿、ワクワクする人が育つ地域の未来について考えた。その後、3つのブース（子育て・学校教育・社会教育）に分かれ、活動事例をもとに意見交流を行った。参加者からは、「かっこいい大人との出会いが子どもたちの学習意欲を高めることに大きな関係がある。」や「行政と民間、地域が協働して、子どもと共に大人を育てる活動はとても大切なこと。自分の地域でのより良い活動につなげて行きます。」などの意見が寄せられるなど、これまでの実践の成果が得られた。

また、2月には「飛騨市学園構想報告会」を開催し、市内小中学校教職員と地域学校協働活動推進員が参加した。報告会では、飛騨市学園構想の「これから」と「これまで」の説明、3事例（課題解決型学習2、校種間交流1）の実践報告、國學院大學教授田村学氏による講演「主体的・対話的で深い学びと探究」を行った。学園構想での取組は、考えを関連付けながら広げ、深い学びにつなげる探究学習の重要性を、参加者全員で共通理解できた。

さらに、令和5年度からの“学園構想のこれから”について、これまでの4年間の取組や「まなびみらい会議」でのご意見等をもとにコアチーム会議で熟議を重ね、人が育つ地域づくりの未来像を核とした“飛騨市学園構想第2章リーフレット”にまとめ、3月末に発行した。

#### <受賞実績>

- ・文部科学大臣表彰 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」 （河合小学校運営協議会&地域学校協働本部）
- ・岐阜県防災活動大賞 「自ら学び伝える本気の防災～中学生から広げる防災～」 （神岡中学校文化部）
- ・文部科学大臣学校安全表彰 「防災タウンウォッチング等のこれまで取り組んできた防災教育」 （古川中学校）
- ・岐阜県教育長表彰 「みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち（地域との協働によるキャリア教育や学校支援活動など）」 （古川中学校PTA）
- ・岐阜県ふるさと教育表彰 優秀賞 （市内の全小中学校）

#### <主な活動実績>

##### ①課題解決型学習

- ・古川中学校「マイプロジェクト」自分の興味・関心や得意・好き等を活かして、人から「ありがとう」と言われる活動の創造
- ・古川中学校吹奏楽部や合唱部による地域ミニコンサート ・古川中学校美術部による地域での作品展
- ・神岡中学校「神岡FIELD学」地域と連携・協働し、飛騨市探Q（1年：よさや課題）、企業クエスト（2年：魅力や強み）、未来づくり授業（3年：自慢や誇り）

##### ②コミュニティ・スクール&地域学校協働活動

- ・古川小の古小サポーターの取組（登下校時の見守り、環境整備サポートなど） ・古川西小の見守り隊（子どもデザインによる隊員ベストの更新）
- ・河合小学校の学校運営協議会&地域学校協働本部による地域学校協働活動「河合っ子マルシェ」の開催（ローズガーデン、薬草フェスティバル）
- ・山之村地域学校協働活動の山っこブランド販売会（道の駅そやなを活用し山之村の魅力発信と移住促進PR、ロゴ作成、リーフレット作成配布など）

##### ③校種間交流

- ・さくら保育園と古川西小学校の架け橋プログラムの実施〔ACP（アクション・チャイルド・プログラム）の協働実施〕
- ・宮川小学校と飛騨神岡高校による「ロボット講座」（飛騨神岡高校ロボット部員による児童へのロボット操作体験）や神岡小学校と飛騨神岡高校による「俳句指導」（飛騨神岡高校文芸部による児童への俳句指導）
- ・古川小学校と吉城高校による「夏休み勉強ボランティア」（吉城高校の生徒が古川小の児童へ学習支援）
- ・大正大学（東京都豊島区巣鴨）へ出かけ、中学生が浦崎教授や大学生と一緒に探究学習（中学2年生7名参加）

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：4,534千円】

令和5年度は、学園構想第2章の開始年となる。第2章のリーフレットには、「みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち」の具体的なイメージについて4領域(①子どもたちが興味関心を起点に教科で学んだことを活かし面白くなって「探究」している学校②親子ともに学ぶ面白さを感じられている家庭③子どもたちの多様な興味関心を呼び起こし受け止める地域④大人も子どもも面白くなって遊びチャレンジが多発している地域)で示した。各領域の主な目標としては、①ではワクワクする教科学習や社会とつながる探究学習に取り組むこと②では「考える」「やってみる」を楽しむ家庭づくりに関係機関と連携して取り組むこと③では対話にあふれた地域学校協働活動を実施すること④学ぶ楽しさを共有する探究フェスを開催することを掲げ、その実現を目指す。

2 ICTを効果的に活用した授業づくり(決算額 28,406千円) 事業番号8 評価 A

各学校の授業や活動等で、タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用し、児童生徒の情報を収集・発信する能力を高めるだけでなく、一人ひとりに適した学習方法や仲間との活発な意見交流など、主体的で対話的な学びを進めている。また、ICT支援員は授業におけるICT機器の積極的な活用や環境整備への指導・支援に多大な力を発揮している。令和4年度は、引き続きICT環境の整備を進めるとともに、ICT支援員を2名増員し、各校週1回の訪問を可能にすることで、児童生徒や教職員の授業や活動におけるICT機器のより効果的な活用を推進し、課題解決能力や情報活用能力の育成を目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
ICTを効果的に活用した授業づくり	29,167 (3,518)	28,406 (2,967)	761 (551)	◇児童用タブレットPC(40台) ◇教員用タブレットPC(小学校60台、中学校40台) ◇電子黒板(17台) ◇ICT支援員配置(3名)※内2名は短時間勤務

(評価)

国の「GIGAスクール構想」に基づき、令和4年度末までに、タブレット端末は一人1台、電子黒板は小学校2年生から中学校3年生までの普通教室・特別支援教室・理科室に整備を完了した。各学校では、ICT支援員の指導や助言により、ICT機器を授業や校外学習、行事等で積極的に活用し、目的に応じて創意工夫を凝らした効果的な取組を行った。こうした効果的な実践を学校間で情報共有し、自校での実践に活かすことができるよう昨年度に引き続き、ICT活用事例集「ひだのICT2」を刊行した。

<タブレットの主な活用事例>

- ・Keynoteを活用しスライドの録音機能を使った読み聞かせ
- ・ロイロノートを活用し画面収録や録音機能を使った学習評価
- ・zoomを活用したオンライン授業で自宅待機期間中の仲間と一緒に学習
- ・生徒会活動によるロイロノートを活用したデジタル意見箱
- ・Jambordを活用し仲間との意見共有や多様な考えの整理
- ・地域貢献活動での情報発信

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：47,583千円】

令和5年度は、電子黒板や教員の担任用タブレットの整備完了を目指す。電子黒板は小学校1年生教室と増設する特別支援学級に10台整備、小学校タブレ

ットPCは児童用84台・教員用40台を更新・整備、Wi-Fiアクセスポイントは10台更新、サーバは8台更新する等のICT環境の整備を進める。

### 3 学習環境・体験活動の充実と指導力の向上（決算額 4,326千円）

事業番号9 評価 A

社会の急速な変化の中、未来の創り手となる児童生徒に求められる資質・能力として、「情報活用能力」「グローバル化に対応する力（外国語によるコミュニケーション能力、日本の伝統や文化に対する深い理解など）」等が重要視されている。こうした資質・能力の育成を目的として、子どもたちの学習環境や体験活動を充実したり、教職員の指導力を向上したりする取組を推進する。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
学習環境・体験活動の充実と指導力の向上	千円 4,412 (650)	千円 4,326 (564)	千円 86 (86)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室として教育相談室「グリーンルーム」の環境整備</li> <li>・民間派遣によるALTの増員</li> <li>・児童生徒の「体験」活動の充実</li> <li>・教職員を対象とした研修等の開催</li> </ul>

(評価)

令和4年度は、児童生徒と保護者が安心して相談や学習ができるよう、教育相談室「グリーンルーム」を古川町の千代の松原公民館に加え、神岡町公民館に設置した。利用者は、千代の松原公民館が8名（来室回数240程度）、神岡町公民館は利用がないため、週1回程度学校を訪問し、不登校や不登校傾向児童生徒の状況を情報共有した。

また、これまで国のJETプログラムを活用しALT3名を派遣しているが、さらに9月からは、民間派遣によるALTを1名増員し、児童生徒が日常的に英語によるコミュニケーションを行うことができる環境を整えた。7カ月程の実践だったが、学校からは「児童をたくさん褒めてくれ、子どもも安心して話せるし、自信をつけている。」「低・中・高の学年に合わせた話し方でありがたい。」「一生懸命に子どもたちや職員と関わり会話の機会を作ってくれる。」などの声が寄せられ、成果が見られた。

児童生徒体験学習は、夏休みに小学生を対象に2つの教室を実施した。「わくわく英語体験教室」には、3・4年生が13名、5・6年生が10名参加し、英会話や英語ゲームに取り組みながら、英語によるコミュニケーションを楽しんだ。「外国人の観光客が困っていたら、できるだけ英語で話せるようにしたい。うまく伝わらなかつたら、ジェスチャーで伝えたい。」「外国人に会ったら、今日使った英語や学校で学んだ英語を使ってチャレンジしていきたい。」などの感想が寄せられるなど、英語の活用に対する意識が高まった。また、「わくわく自然体験教室」には、5・6年生が6名参加し、神岡町の自然観察（地形・地層・河床等）や水屋・神岡城公園散策などを楽しんだ。参加後の感想では、「わからないことを側まで行って、触れて体験できたことが楽しかった。石のことも飛騨市のことがいっぱい知れた。」など、体験を通して多くのことを学んだ。

教職員を対象とした研修は、授業改善の視点と改善の具体的方策について学び、「主体的・対話的で深い学び」を生み出す授業実践に活かした。さらに、授業や活動におけるICTの効果的な活用と指導改善について学び、各校の実践を交流することで、効果的な活用方法を共有し授業改善につながった。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：13,606千円】

児童生徒体験学習は、体験を通して新たな発見や感動とともに多くの学びがあることから、持続可能な取組としていきたい。そこで、令和5年度は、生涯

学習課と連携して飛騨市民カレッジにジュニア学部を創設し、児童生徒体験学習を位置付ける。

4 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備（決算額 5,536千円）

事業番号10 評価 B

自分がやりたい部活動を「仲間とともに、これからも続けたい」という願いで、思い切り打ち込むことのできる環境・活動づくりに向けて、令和2年度より「部活動コア会議」を開催し、部活動が抱える課題と対策を検討してきた。今年度12月には、スポーツ庁と文化庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が提示され、少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保することを目指し、学校部活動や新たな地域クラブ活動が生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるよう、適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方について示された。令和4年度は、一部種目で行われている合同部活動の支援を進めるとともに、「地域クラブ活動」について、一部のスポーツ・文化系部活動で試行実施し、令和5年度からは段階的に種目数を増やししながら、令和8年度には休日・平日の地域部活動化の完全実施を目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備	千円 7,554 (1,553)	千円 5,536 (798)	千円 2,018 (735)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同部活動のための学校間シャトルバスの運行</li> <li>・地域部活動推進協議会の設置及び実施</li> <li>・部活動指導員等の配置</li> <li>・部活動充実の支援（大会遠征等・吹奏楽部楽器購入）</li> </ul>

(評価)

古川中学校の一部種目（サッカー、ソフトボール）の部活動へ、部員数が少なく単独チームでは大会等に参加できない神岡中学校の生徒が参加する合同部活動を実施した。これまで、神岡中学校の生徒は、平日においては自校で個人練習を中心に取り組んできたが、休日においては、保護者の送迎で古川中学校を拠点に合同で練習してきた。今年度、5月から8月にかけて、金曜日と土曜日に神岡中学校から古川中学校への移動タクシーを試行的に運行した。生徒からは「合同で練習する機会が増え、仲間と一緒に練習することで自身の技術力の向上につながり、チームで大会に参加することもできとても楽しかった。」という喜びの声が聞かれるとともに、保護者の送迎負担の軽減にもつながった。また、地域クラブ活動化に向けて、市のスポーツ協会や文化協会の代表・学校代表・スポーツ少年団事務局代表などの関係者による地域部活動推進協議会を設置し、4回の協議会を実施した。

今年度は、部活動指導員4名、外部指導者18名（登録は21名）の方が、部活動指導を行った。部活動充実の支援では、大会遠征等の補助として36件2,270,000円を支援するとともに、吹奏学部の楽器（トランペット・クラリネット・ホルン・アルトサクソ）を購入し、古川中学校と神岡中学校へ整備した。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：9,605千円】

部活動指導者バンクの設立については、国から示された地域クラブ活動の在り方等のガイドラインに基づく指導者の確保や質の保障なども含め、検討が必要なため設立できていない。また、部活動指導者の研修会は、県主催の研修会がスタートしたため、7名の方が参加しライセンスを取得された。今後、地域クラブ活動に関する市全体の運営体制や運営の在り方、指導者の確保・研修や質の保障等について、民間業者にコーディネートを業務委託し、持続可能な地域クラブ活動環境の整備を目指す。

### 3 生涯学習課

#### ① 生涯学習係・教育振興係

##### 総括事項

社会教育法を基本とし、乳幼児から高齢者まで幅広い市民層に向けて、社会教育委員、各種推進員及び指導員と連携を図り、生涯学習の普及啓発に努めた。新型コロナウイルスの影響で、市民カレッジのメインとなるさかなクンの講演会は3回目の延長で実現するなど、ようやく実施した講座もある一方で、公民館施設利用者は回復途上にあるものの、講座の中止やサークル活動の活動が低迷している団体もある。

なお、少年の主張大会（6/11）や二十歳のつどい（旧成人式）についても来場者の制限を行うなど、密にならないよう感染防止対策を行い実施した。

- 1 社会教育推進事業
- 2 青少年育成推進事業
- 3 家庭教育学級等開催事業
- 4 地域学校協働活動事業
- 5 公民館講座等開催事業
- 6 公民館管理運営事業

##### 施策の概要

#### 1 社会教育推進事業（決算額 895千円）

事業番号11 評価 A

社会教育委員は、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行い、社会教育に関して教育委員会に助言する役割を担うことから、新型コロナウイルス感染症の影響でできなかった研修会をリモート方式に切り替え開催することで、委員の資質向上を図るとともに地域社会教育の推進リーダー役として活動したが、人数を制限しながらの会議など、活動が制約された中での活動となった。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
社会教育推進事業	1,324 (1,324)	895 (895)	429 (429)	社会教育委員の会：2回 飛騨地区及び県社会教育委員連絡協議会等：3回



(評 価)【令和5年度予算計上額：1,301千円】

社会教育委員と社会教育支援団体から構成されるネットワーク「生涯学習推進会議」は、4つの部会（子育て支援、青少年健全育成、文化芸術振興、スポーツ振興）で構成し、部会毎に今後の活動上での課題について意見交換の場を設け、活動の方向性を確認した。活動内容については生涯学習だよりにより回覧用チラシを発行するなど広く市民の皆様にPRした。

(課題及びその対応策)

コロナ禍でできる具体的な意識改革や行動変容により会議の開催自体もオンラインを活用したが、不慣れな点も否定できなかったことから、集合型とオンラインの双方の利点を生かして関係団体と連携・協働を図る。

2 青少年育成推進事業（決算額 2,103千円）

事業番号12 評価 A

4町から青少年育成推進員の推薦を求め、それぞれの町の地域特性を汲み取りながら青少年育成活動を展開した。青少年に関連する様々な課題に地域ぐるみで取り組むことにより、青少年を取り巻く環境の改善や地域住民の健全育成への気運を醸成した。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
二十歳のつどい開催事業	1,203 (1,203)	1,109 (1,109)	94 (94)	令和5年1月3日開催（対象者232名） 飛騨市文化交流センター 二十歳出席者：163名 神岡町公民館 二十歳出席者：48名 計 211名 R5より二十歳のつどいとして名称変更して実施した。
青少年健全育成推進事業	1,036 (1,036)	722 (722)	314 (314)	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年の主張大会の開催 中学生7名小学生8名（古川町公民館6月11日） 飛騨地区予選を経て県大会に1名出場</li> <li>青少年育成推進連絡協議会  <u>古川部会</u>：2年ぶりに10地区でふれあい集会を実施し、また次年度へ繋がる活動として啓発リーフレットを配布しPRに努めた。  <u>河合・宮川部会</u>：コロナにより各種イベントが中止となり、啓発活動が出来なくなったことから、チラシを全戸配布することで青少年育成運動の啓発を図った。  <u>神岡部会</u>：登校する児童に向け、学校玄関前にてあいさつ運動を実施した。啓発活動はイベントが中止になったため中止とした。 </li> </ul>
子ども会育成連絡協議会補助金	650 (650)	272 (272)	378 (378)	子ども会充実と活性化のため、育成連絡協議会を通じ、各単位子ども会の団体運営及び個別の事業活動の経費の一部を補助した。 単位子ども会数 50団体、子ども会員数 1,284人

(評 価)【令和5年度予算計上額：二十歳のつどい1,301千円、青少年健全育成1,323千円、子ども会育成650千円】

- ・コロナ禍ではあったが、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、関係者のみで少年の主張大会や二十歳のつどい等の行事を実施した。二十歳のつどいの開催趣旨は「お祝い」から「同窓会」へと転換し現行どおり20歳を対象に実施した。

(課題及びその対応策)

- ・今後はコロナ前のような社会状況に戻ることから、広く周知し事業や活動を推進していく。
- ・子ども会については、地域に住む子どもたちの集団活動の基礎であり、自主性や仲間との連帯感を育む貴重な場であるため、様々なサポート案を提案するなど子ども会と共に継続して実施していく。

メディア掲載 6月14日 岐阜新聞 飛騨市で少年の主張大会 小中生が意見堂々、中日新聞 スピーチで自分の思い

### 3 家庭教育学級等開催事業 (決算額 400千円)

事業番号13 評価 A

家庭教育学級は保護者に対して家庭教育に関する学習機会を継続的に提供する事業であり、実施にあたっては各学校のPTAを主体とした。年間を通じ、今後の子育てに活かしてもらうことを目的として、集団で学ぶ学習形式にて親同士の交流を深めながら子育てについて学んだ。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
家庭教育学級 (小中学校) 開設事業	千円 442 (442)	千円 400 (400)	千円 42 (42)	家庭教育学級 (小中学生と保護者対象：各小中学校PTA行事で実施) ・実施回数：46回 延べ参加者数：2,997名

(評 価)

子育ての悩みを持った親同士が相互交流を通じて子どもの心身の発達上の課題などを学び、親の役割や家庭の在り方、小学校では生活習慣に関すること、中学校ではSNSに関する問題を再認識するなど親の自発的な学習を促すきっかけとなった。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：家庭教育学級事業 442千円】

家庭教育に関する課題は、学校規模や地域の環境によって相違があり、各々の課題解決に繋がる内容となるよう各小中学校のPTAに委託している。今後より効果的な事業となるよう学校やPTAと連携を深め事業の継続化に努めたい。

### 4 地域学校協働活動事業 (決算額 406千円)

事業番号14 評価 A

幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な課題に取り組んだ。具体例として、小学校の運動会開催前に地域の方でグラウンドの草取りボランティアを募集し実施するなど地域と学校が連携することにより共に課題解決することができた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地域学校協働活動事業	千円 711 (432)	千円 406 (322)	千円 305 (110)	地域学校協働活動推進員：24名 研修会：県主催6回、市主催1回

(評価)

市内の学校区に7つの地域学校協働活動本部を設置するとともに、各本部に3～5人の推進員を委嘱し、学校運営協議会と連携する形で活動を展開した。当事業はR2年度開始のため推進員の研修が中心であったが、R4年度からは活動中心になっている。2月には活動成果の発表の場として、地域住民が一体となって取り組んだ事例発表を行い、関係者で情報共有するとともに、今後の活動に向け推進員としての資質向上を図った。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：1,469千円】

地域毎の課題が相違することから、各校区単位での支援をとる必要がある。またスムーズに事業展開できるよう「創り手育成支援事業」を生涯学習課へ所管替えすることにより、推進員の研修から事業までの一貫したサポートを行う。

5 公民館講座等開催事業 (決算額 12,181千円)

事業番号15 評価 B

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
公民館講座等開設事業	千円 5,065 (1,850)	千円 4,290 (1,858)	千円 775 (△8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館講座 39講座 受講者954名 (コロナで中止4講座)</li> <li>・誰でも自主講座 40講座 受講者358名</li> <li>・シニア学部 11講座 登録者数104名 (60歳以上)</li> <li>・古川町寿大学 (囲碁、ダンス等4団体のサークル活動)、登録者数77名 ※各教室毎月数回定期開催</li> <li>・シニア向けスマホ教室 175回 (3回/1人上限)</li> </ul>
アカデミック講座	7,892 (0)	7,891 (0)	1 (0)	<p>本格開校2年目 8講座 857名 (コロナ禍中止1講座) 「学びに卒業はない」を合い言葉に「宇宙」「古川祭」「食文化」など様々なジャンルの講座を開催した。 ・特別講座「さかなクン講演会」は、親子3世代が集うなど、幅広い世代の方に参加いただいた。</p>

(評価)

「公民館講座」は、時代の趨勢により薄れつつある昔からの飛騨の風習や文化をテーマとし、ふるさと「飛騨」を再認識する内容の講座を実施した。しかしR4年度はコロナ禍打破のため、笑いと笑顔を届けるチンドンショー (参加128名) など、自宅に閉じこもりがちな世代のために面白さを前面に出した講座を

楽しんでもいただけたと思っている。「誰でも自主講座」は、教える人と学ぶ人が一体となって自主的に作り上げていく講座となっている。趣味や生活に関する内容を中心に幅広いコンテンツで構成されており、サークル活動への展開へと繋がるよう企画している。

スマホ教室は河合町をモデル地区として希望者の募集を実施したが、区長回覧での募集は希望者がいないことなど対象年齢層の把握に時間がかかり回数は少なかった。(概ね75～80歳代は希望なし。65～70歳がターゲット)

なお中止した講座は「食」(試食等あり)を中心とした5講座である。

令和3年度に本開校したアカデミック講座は、市内在住の講師や国内で活躍している多様な講師を飛騨市に招聘し、対面型での有料講座を開催した。今後も魅力有る講座を企画していく。

メディア掲載 5月18日 NHK(東海18:30～) 公民館講座 あぶらえを使った郷土食作り(飛騨地方の伝統食)  
5月24日 岐阜新聞 公民館講座 チンドン屋ショーに手拍子  
5月30日 中日新聞 公民館講座「古川祭 90年前の映像鑑賞」  
6月16日 NHK(東海18:30～) 公民館講座 ほうば寿司作り(飛騨地方の伝統食)  
7月15日 岐阜新聞 北飛騨の歩みたどる 歴史再発講座 郷土史家が担当  
8月 6日 岐阜新聞 アカデミック講座 宇宙のロマン探る 東大研の大橋教授 重力波、魅力語る  
9月28日 岐阜新聞 アカデミック講座 食の大使 工藤英良氏 身近な食材で創作 伝承作物を利用したヒダロール  
10月4日 岐阜新聞 公民館講座飛騨産大豆で思い出す故郷の味 豆腐作り 甘み醸す  
3月 2日 岐阜新聞 アカデミック講座 ギョギョ お魚講演会 さかなクン

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：公民館講座運営事業 11,620千円】

全世代が参加できるよう、R5年度は小中学生を対象とした「ジュニア学部」を創設し、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる講座を提供していく。市民カレッジアカデミック講座については、より参加者が増えるよう、アンケートとその分析を行うことにより、魅力的で面白い講座を企画する。また沢山の講座に参加することで、“学生食堂割引”など参加しやすい仕組みづくりを研究する。スマホ教室は社会福祉協議会と連携し、講座参加者をターゲットに希望者の募集を実施する。

## 6 公民館管理運営事業(決算額 49,046千円) 事業番号16 評価 A

市有公民館は、地域住民の生涯学習を行う拠点施設となることから、適切な施設運営に努めるとともに、老朽化等による故障箇所の修繕を実施した。また、公民館講座等学びの機会の市民に広く提供することで、市民の生涯学習活動を支援した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
公民館施設管理事業	千円 33,364 (28,473)	千円 28,697 (23,595)	千円 4,667 (4,878)	公民館4施設、分館3施設の運営・維持管理費 地域コミュニティ施設10施設（うち指定管理施設3施設）の維持管理費
公民館施設維持修繕事業	11,880 (11,880)	11,877 (11,877)	3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神岡町公民館3階床壁改修工事 5,346千円</li> <li>・古川町公民館排煙窓修繕工事 1,100千円</li> <li>・上村地区コミュニティ施設トイレ洋式化 1,639千円</li> <li>・河合町公民館放送設備更新 備品購入 419千円</li> </ul>
集落有集会施設整備事業	8,472 (8,472)	8,472 (8,472)	0 (0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落有施設整備事業補助（16団体） 8,394千円 LED化2、トイレ洋式化3、エアコン2、屋根改修4、備品購入2、駐車場整備1、解体1、倉庫改修・設置2</li> <li>・地域活動支援補助 1団体 78千円（防災講演会の実施）</li> </ul>

（評価）

市有公民館では、神岡町公民館3階床改修し、利用者の快適な環境に努めた。

集落有集会施設整備事業については、解体制度を新設することにより老朽化した施設の方向性を示し、1団体の利用があった。

（課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額：公民館施設管理39,374 維持修繕3,581 集落有集会施設補助11,093千円】

市有公民館の修繕はその都度対応し、大規模な修繕工事は施設毎の要修繕箇所の把握を行い順次工事を実施していく。また、公民館は有事の際に避難所の機能を果たすことから、その機能を果たすよう修繕を実施する。

コロナ禍でサークル活動をはじめとした地域活動が元に戻っていないため、以前のような活発な地域活動の復活をめざす目的でR5年度に限り市民の利用に限定した無料化する試験事業を行う。

## 4 文化振興課

### ① 文化係

#### 総括事項

社会情勢の複雑化や成熟化を背景に、市民一人ひとりの価値観や生活スタイルが多様化する中、これまでの物質的な豊かさから感動や心のやすらぎを求める傾向に変化しつつある。市民が日常生活を送る上で豊かさやうるおい、または生き甲斐を実感してもらうためには、更なる芸術文化の普及浸透や生涯学習の実践が求められる中で、芸術文化に親しみ、様々な人と交流する場を提供し続けたことで豊かな感性を育んだ。

また、各種講座や美術館等で企画展示を開催し、故郷への誇りや愛着心の醸成に努めるとともに、コロナ禍にあって、安易に催しを中止せず、オンライン等を使っての開催も取り入れながら、市内外への学びの場の提供、情報発信に努めた。

- 1 図書館機能の充実事業
- 2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業
- 3 地域歴史資源活用事業
- 4 文化芸術振興事業
- 5 文化交流センター管理・運営事業

#### 施策の概要

##### 1 図書館機能の充実事業（決算額 9,936千円）

事業番号17 評価 A

市民の生涯学習の支援や多様化する知的好奇心に対応するため、古い蔵書を新しいものに更新した。

新型コロナウイルス感染症対策のため縮小していた企画やイベントを実施する事ができ、幅広い年代の方が参加された。

一方、河合町、宮川町、山之村地区の図書館遠隔地に対しては、前年に引き続き定期的に図書の出張貸出しサービスとして「飛ぶ図書館」を実施し、遠方にお住まいの方にも図書館の蔵書を利用してもらうことができた。

館内展示では、「広葉樹のまちづくり」や「薬草プロジェクト」などの他課とだけでなく、観光協会等の外部団体ともコラボレーションした企画のコーナーを設け、書籍を通じて市の取り組みを知っていただく機会を創出した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
図書館運営事業	千円 10,168 (10,168)	千円 9,750 (9,750)	千円 418 (418)	利用者ニーズにマッチした選書や時代のトレンドの流れに沿った本の購入に努めるとともに古い蔵書を順次更新し、利用者にとって魅力のある本を提供する図書館を目指した。また、電子図書館のコンテンツを追加し、遠方居住者や図書館を利用されない方への利用促進を図った。 ・蔵書購入数:5,222冊、「飛ぶ図書館」利用冊数：延べ748冊 ・利用者数：飛騨市図書館 22,618名（過去5年の平均：25,839名） ：神岡図書館 10,798名（過去5年の平均：11,556名） ・電子図書コンテンツ購入数154冊（総コンテンツ数1,353冊） ・電子貸出実績：559件
来館促進イベント事業	300 (300)	186 (186)	114 (114)	例年通りハロウィンイベント、講師を招いての「飛騨の歴史講座」などを開催した。また、規模を制限した中ではあったがおはなし会も継続して開催した。コロナ禍に中止や規模縮小していたイベントを再開し、子供から年配の方まで幅広い年代の方に楽しんでいただくことができた。 ・イベント実施回数は16回、参加者は延べ1008名となった。

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：19,641千円】

図書館司書は令和4年度までに正規職員を計3名増員した。新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン開催や中止していた研修も現地開催が再開し、館内での日常業務以外でのスキルアップの場を持つことができた。

令和5年度は新たに図書館利用中の託児サービスを開始するため、利用促進とともに利用者のニーズの把握にも努めていきたい。また、新聞データベースやデジタル化資料送信サービス・電子図書館など利用数が停滞してきているため、利用者に活用してもらえるよう周知・利用促進を図っていく。

メディア掲載実績：飛騨市図書館 飛騨市観光協会連携企画「HIDA BOOK TRIP」第2弾「FOLK FOLK FOLK」 6月24日中日新聞・岐阜新聞  
神岡図書館 「歴史講座」 7月14日岐阜新聞  
飛騨市図書館・神岡図書館 「本の福袋」 1月5日中日新聞・1月6日岐阜新聞  
飛騨市図書館 飛騨市観光協会連携企画「HIDA BOOK TRIP」第3弾「WORLD TRIP IN HIDA」 1月27日中日新聞・岐阜新聞

## 2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業（決算額 148,936千円）

事業番号18 評価 A

市美術館では、市民が芸術文化に興味・関心を持てるような企画展を開催するとともに、多様な文化芸術を創造するアートセンターを目指して、市民の文化芸術活動を支援するため、美術教室等の教育普及事業を実施した。

今年度から新たに始めたアウトリーチ事業の出張美術館については、実施希望があった古川小学校と神岡小学校において、古川小学校3・4・5年生、神岡小学校5年生に対して5日間で10学級に実施。飛騨市美術館から非具象的な収蔵作品3点を持参し、授業一コマ分＝一学級で行った。美術館の方から出向くことで、学校側の負担を減らしつつ、子どもたちが間近に本物の芸術にふれることができる機会の一つとなった。

改修リニューアル工事については、令和4年9月から飛騨市美術館を閉館し着工。空調機器の更新のほか、玄関アプローチのバリアフリー化やトイレのユニバーサル化など、多様な来館者に対する利便性を図った。多目的室は内装を全面改修し、市民ギャラリーとしての活用を促進していく。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
美術館運営事業	4,559 (4,559)	4,146 (4,146)	413 (413)	<p>【企画展】</p> <p>イサム・ノグチ光の彫刻展 会期：50日 入館者数：2,442名            うっとり紙の「透かし折り紙」展            茂住菁邨書展一言霊の響— 会期：44日 入館者数：3,736名            飛騨市美術館収蔵品セレクション展 会期：26日 入館者数：416名            美術教室発表展 会期：8日 入館者数：105名            飛騨市美術展、飛越交流美術展の運営</p> <p>【WS関連】</p> <p>企画展関連WS、岐阜県美術館・岐阜県現代陶芸美術館の出張WS、日本画教室、マンガ教室、講演会、出張美術館（古小3日8学級223名、神小1日2学級41名）など26事業。のべ参加人数2,350名。            市美術館運営委員会 2回開催            市美術館収集委員会 1回開催</p>
飛騨市美術館大規模改修	145,638 (0)	144,790 (0)	848 (0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関アプローチにスロープの増設、バリアフリー対応。自動ドアを2カ所に増設。掲示板新設</li> <li>・空調設備の全更新</li> <li>・受付窓口の館内設置、車いすカウンター設置</li> <li>・トイレの床バリアフリー化、ユニバーサル化に伴う衛生器具の追加（ベビーチェア、収納式多目的シート）</li> <li>・展示室、ロビー、多目的室のピックアップレールの更新と追加</li> <li>・展示バックヤードの防湿対策壁天井改修</li> <li>・多目的室の内装全面改修（床、壁、天井材）</li> <li>・害虫侵入防止のための中庭改修、床タイル張り</li> <li>・断熱対策のための既設サッシガラスの複層ガラス化、UVカット対策フィルム貼り</li> <li>・各所照明設備のLED化</li> </ul>

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：3,088千円】

「イサム・ノグチ光の彫刻展」は飛騨・世界生活文化センター等から所蔵品を多く借り展示。同時開催したうっとり紙の「透かし折り紙」展では全国から



作品を集め展示し、二つの違った紙の魅力を伝えた。「茂住菁邨書展一言霊の響」では飛騨市出身の茂住氏が展覧期間中のほとんどで在館し、作家によるWSやイベントを数多く実施。市民が積極的に郷土作家や書という芸術に親しめる機会となった。また書展関連では、学校から授業の一環として美術館に訪れ、鑑賞会・WSを行う学校連携イベントや、「ヒダスケ」を介したZOOMでの作家とのオンライン交流会などの新たな試みを行った。「飛騨市美術館収蔵品セレクション展」については、大規模改修に伴い収蔵品を保管いただくことになったきっかけから、初めて、飛騨・世界生活文化センターにて展覧会を開催。新たな客層に飛騨市の収蔵品を披露する機会となった。飛騨市にゆかりのある作家や、他館との連携による展覧会、関連するトークイベントや講演会、美術教室・親子WSなどの関連事業を多数実施し、令和2年作成の基本構想に沿う、より動きのある事業を展開し飛騨市民が文化芸術にふれる機会を創出した。

次年度は、常設展を設置することで飛騨市民がより訪れやすく、芸術とふれる機会を増やす。リニューアルコンセプトを意識し、「飛騨の文化・芸術・作家を魅せる」「美術を学ぶ」「作品と人との交流・対話」を実現する展覧会やWS、イベントを実施していく。

メディア掲載実績：飛騨市美術館「飛騨市美術館でビッグイベント イサム・ノグチ「光の彫刻」展」4月7日 神岡ニュース  
飛騨市美術館「飛騨古川で出会う、モダン・デザインの名作。イサム・ノグチ「光の彫刻」展」4月号 ブレス  
飛騨市美術館「イサム・ノグチ「光の彫刻」展」「うっとりがみの「透かし折り紙」展」4月号 さるぼぼ倶楽部  
飛騨市美術館「独創性あふれる岐阜提灯の光」4月19日 中日新聞  
飛騨市美術館「<美博ノート>飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展 AKARI 14A」4月19日 朝日新聞  
飛騨市美術館「<美博ノート>飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展 AKARI 14A」4月22日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展」4月26日 朝日新聞  
飛騨市美術館「和紙、竹ひご、光の造形「AKARI」イサム・ノグチ彫刻の粋 飛騨市美術館 芸術の妙示す創作展」4月23日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展 AKARI UF3-Q」4月26日 朝日新聞  
飛騨市美術館「<美博ノート>飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展」4月29日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「<美術館博物館>【東海】飛騨市美術館」4月29日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「<美博ノート>飛騨市美術館 イサム・ノグチ「光の彫刻」展 イサム・ノグチ来訪時の写真」5月10日 朝日新聞  
飛騨市美術館「イサム・ノグチ「光の彫刻」展」5月14日 毎日新聞  
飛騨市美術館「彫刻家のイサム・ノグチ 飛騨市美術館で「光の彫刻」展」5月18日 高山市民時報  
飛騨市美術館「猫の人形、上向きニッコリ 飛騨市で造形教室「光の彫刻」展関連催事」5月21日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「<ピント来た>「うっとりがみの「透かし折り紙」展」6月3日 中日新聞  
飛騨市美術館「茂住菁邨さんが書展 高山できょうから（飛騨市展覧会情報あり）」6月11日 読売新聞  
飛騨市美術館「書の軌跡「四神」堂々 高山市 茂住菁邨さんが個展（飛騨市展覧会情報あり）」6月12日 岐阜新聞  
飛騨市美術館「元内閣府専門官 茂住菁邨さん 19日まで高山 来月2日から飛騨 「令和」揮毫の書家、故郷で書展」6月16日 朝日新聞  
飛騨市美術館「新元号「令和」を揮毫した茂住菁邨氏地元で集大成展」6月23日 神岡ニュース  
飛騨市美術館「巻頭特集 茂住菁邨書展 言霊の響」6月号 さるぼぼ倶楽部  
飛騨市美術館「「令和」を揮毫した書道家、茂住菁邨の硯箱（今後の個展について-7.8月に飛騨市で開催）6月号 ブレス

飛驒市美術館 「「令和」揮毫した茂住さん 個展「言霊の響」が11日から（7月2日からは飛驒市美術館でも）」6月1日 高山市民時報  
 飛驒市美術館 「「茂住菁邨書展」講演会」7月1日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「躍る文字、40年余の歩み 飛驒市出身 書道家茂住さん個展」7月2日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「「令和」を揮毫 古川出身書家・茂住さん 故郷で集大成の個展」7月3日 中日新聞他  
 飛驒市美術館 「書に浮かぶ言霊の響き」7月3日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「飛驒市出資院・書道家茂住さんから指南 宮川小児童、短冊に願い事」7月8日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「＜短冊 各地で多彩な催し＞書で短冊に願い事」7月8日 中日新聞  
 飛驒市美術館 「茂住菁邨書展 言霊の響」「茂住菁邨書展」講演会」7月13～15日 Hits FM 岐阜  
 飛驒市美術館 「茂住菁邨書展 言霊の響」6月28日 エフエム岐阜 ウィークリー飛驒  
 飛驒市美術館 「「読む」でなく「感じる」書展」7月19日 信濃毎日新聞  
 飛驒市美術館 「書家・茂住さん 迫力の揮毫」8月9日 中日新聞  
 飛驒市美術館 「＜ピント来た＞ナイトミュージアム」8月11日 中日新聞  
 飛驒市美術館 「飛驒市美術館で「文化の薫り展」開催」8月11日 神岡ニュース  
 飛驒市美術館 「3年ぶり 会場展示に104点 古川で飛驒市美術展開幕」9月13日 中日新聞  
 飛驒市美術館 「彫刻や書、市民ら創作意欲 飛驒市美術展に141点出品 増元さんの洋画など 市展賞6点決まる」9月13日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「力作が一堂に並ぶ展覧会 第18回飛驒市美術展」9月号 さるぼぼ倶楽部  
 飛驒市美術館 「古川小児童、芸術作品味わう 市美術館の油彩画鑑賞」10月25日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「キラめく！にじいろキッズ 飛驒市美術館所蔵の作品を通して絵画の鑑賞法を学ぶ授業を紹介」11月19日 ぎふチャン放送  
 飛驒市美術館 「「ふしぎな絵 ふしぎな版画」飛驒市美術館が収蔵品展示」1月27日 高山市民時報  
 飛驒市美術館 「飛驒市美術館収蔵品セレクション展 ふしぎな絵 ふしぎな版画」1月27日 岐阜新聞  
 飛驒市美術館 「見てふしぎな印象 油絵や銅版画33点」2月8日 中日新聞  
 飛驒市美術館 「令和4年度 飛驒市美術館 美術教室発表展」3月号 さるぼぼ倶楽部  
 飛驒市美術館 「飛驒市美術館 美術教室発表展」3月号 プレス  
 飛驒市美術館 「独自作風、来場者にアピール 飛驒市美術館の教室参加者展示」3月8日 岐阜新聞

### 3 地域歴史資源活用事業（決算額 31,566千円）

事業番号19 評価 A

姉小路氏・江馬氏という二つの戦国武将の山城跡の整備活用を推進した。国史跡を目指す姉小路氏城館跡については、発掘調査報告書の執筆等まとめ作業を実施した。またそれぞれの専門委員会を開催し調査研究や保存・活用・整備の客観性を担保した。事業の内容については、歴史講座をはじめとして、SNS等で常時発信し、県内外の興味がある方々に飛驒のダイナミックな山城の魅力と重要な歴史遺産としての価値を伝えた。

飛驒みやがわ考古民俗館は、参加者にも発信者にもなる在り方を求めて「石棒クラブ」による活動を行い、国内では内閣府の地方創生ホームページに取り

上げられ、また国際博物館会議ニュースレターでの掲載など、海外でも事業紹介されるに至った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
江馬氏館跡整備活用事業	2,347 (0)	1,942 (0)	405 (0)	<p>国名勝・江馬氏館跡庭園の更なる活用の発展のため、飛騨神岡街づくり実行委員会に利活用事業を継続して委託した。実際に「神岡フレンチ」や「飛騨の新そば」を学芸員の説明を受けながら食事する会などを開催し、課題や改善点を整理し、次年度以降の具体的な利活用の方向性を模索した。</p> <p>今年度の歴史講座は、3月5日に、学芸員3名と街づくり実行委員会1名による江馬氏城館跡調査成果報告会として、傘松城跡の調査成果を中心に発表を行った。参加者には江馬氏に関する漫画と報告書が付いた資料集をプレゼントした（参加者：約100名）。</p> <p>また、傘松城跡を史跡江馬氏城館跡へ追加指定する意見具申書の提出に伴って、神岡城の展示内容を見直し、傘松城跡の最新の調査成果を反映するパネル・動画を作成した。</p>
神岡城展示リニューアル事業	12,649 (0)	12,649 (0)	0 (0)	<p>高原郷土館を構成する施設の一つである神岡城の展示装飾をリニューアルし、江馬氏城館跡の価値と傘松城跡の評価を伝える展示とすることで、令和5年度の史跡追加指定に向けた機運の醸成と入館者数の増を図った。</p>
姉小路氏関連城館群（山城跡）整備活用事業	6,723 (0)	5,957 (0)	766 (0)	<p>姉小路氏関連の5つの山城について、総括報告書を刊行した。これにより、山城の価値を明らかにし、国指定に向けて意見具申書の提出を行った。</p> <p>山城の価値発信として、学芸員2名で図書館歴史講座を行い、80名の参加があった。</p> <p>また、小鷹利城跡においてまちづくり観光課・黒内区と協議のうえ黒内グラウンド駐車場や城跡への道中各所に案内サイン等を設置した。野口城跡においては通路整備を実施した。他にも山城マップを増刷し、現地への訪問体制を整え、教育普及に努めた。</p>
埋蔵文化財発掘調査等事業	4,586 (2,343)	4,034 (2,160)	552 (183)	<p>試掘確認調査を上町遺跡で、詳細分布調査を古川町袈裟丸地内において実施し、開発計画と調整を行った。また平成28年度に実施した上町遺跡の本発掘調査に関わる報告書を刊行した。</p> <p>整理作業として、平成30年度に実施した寿楽寺廃寺跡・太江遺跡における本発掘調査に伴う遺物分類・実測等を実施した。</p> <p>また、杉崎廃寺跡出土品を市指定文化財にすべく調査を行った。</p>

飛騨みやがわ考古民俗館 活用事業 (石棒クラブ)	341 (0)	257 (0)	84 (0)	収蔵資料の3Dデータの取得と公開を、関係人口(石棒クラブ)と共働して、市オープンデータの取り扱いや調査研究成果のアウトリーチとの整合性を図りながら合宿形式で実施した。 また、文化庁主催の「発掘された日本列島展」での紹介や、「月刊文化財」の表紙を飾るなど、国内外の文化財行政・博物館行政の参考となるよう情報発信が行われた。
旧中村家修復事業	3,045 (0)	2,975 (0)	70 (0)	大工職人・茅葺職人・森の専門家を招いて、建物の見方や活用の仕方を学ぶ学習会を実施した。また、修復にかかる調査設計を実施し、文化財保護審議会委員と現地確認の上、設計に反映させた。
古川祭史研究事業	468 (0)	378 (0)	90 (0)	令和6年度の古川祭史(仮)刊行を目途に編集委員会を組織し、委員会は毎月開催した。 各台組から協力員を選出してもらい、協力員を通じて史料の収集・記録作業を行った。返却時には、台組毎に史料調査報告会を実施した。また、一般市民向けに講演会を実施した。
福全寺跡の大イチョウ保護柵 繕修事業	3,374 (0)	3,374 (0)	0 (0)	祭り広場に位置する福全寺跡の大イチョウは市の天然記念物に指定されている。その保護柵が傷んでおり、令和2年度に撤去をしていた。今年度は飛騨産の広葉樹を用いて修復を行い、その意義を発信する講座を行った。

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額 33,528千円】

姉小路氏城館跡・江馬氏城館跡の調査成果のまとめと発信を昨年を引き続いて実施した。姉小路氏城館跡の図書館歴史講座では80名の参加があり、山城が飛騨市にとって重要な歴史遺産であると認識され、郷土への誇りや愛着心の醸成に繋がってきていると考えられた。また、今年度は、神岡城展示リニューアル、山城マップの増刷、野口城跡の登山道整備、小鷹利城への黒内グラウンドからのサイン整備など、現地への訪問者が増えることを想定した事業を実施した。さらに、岐阜関ヶ原古戦場記念館や富加町、高山市で講演を行い、関連自治体と協力して市外への周知も行った。引き続き、必要なサイン整備等、まちづくり観光課や地元の保存会等とも連携して、普及活用策について検討していきたい。

江馬氏館の活用については、庭園を眺めながらの食事会を数回行い、価値の共有につながる取り組みが実施された。3月に船津座で実施した江馬氏城館跡の歴史講座には約100名の参加があり、価値の共有が進んでいると認識された。令和5年度も活用事業を継続的に実施し、活用策が地域に浸透する方法の模索を継続したい。

飛騨みやがわ考古民俗館での石棒クラブによる活用事業は、関係人口の増大に着目する市の政策に合致させている点が文化庁から評価され、「発掘された日本列島展」での紹介、「月刊文化財」での表紙を飾るなどの機会を得て、飛騨みやがわ考古民俗館及び石棒クラブの取り組みを広くPRできた。令和5年度も引き続き価値の共有と広がり意識した事業に取り組みたい。

古川祭史の研究事業では、祭史編集の基礎資料として協力員を通じて史料の収集・記録作業を行った。想定以上の量の資料が集まりつつあり、新たな発見もあった。また、お借りした資料を返却する際には、整理・リスト化して返却することとしたため、各台組には大変喜んでいただけた。

メディア掲載実績：飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ 朝日新聞11/10 中日新聞4/17 4/27 6/22 7/8 8/6 11/5 長野市民新聞5/17 11/12  
信濃毎日新聞11/12

江馬氏城館跡 岐阜新聞5/8 中日新聞3/7

古川祭史研究事業 中日新聞2/3

福全寺跡の大イチョウ 岐阜新聞12/6

#### 4 文化芸術振興事業（決算額 18,122千円）

事業番号20 評価 B

交流センターで行うイベント企画委託を補助事業化して市民が優れた芸術文化に触れる機会を創出するとともに、地域の伝統文化の継承の支援を行った。

「荒垣秀雄顕彰作文コンクール」は全国からの応募者・受賞者の増加に対応し、表彰式はオンライン配信を取り入れて開催した。飛騨の歴史や民俗を伝え観光客にも楽しんでもらえる小さな博物館として令和3年度にオープンした「街なかポケットミュージアム」では、飛騨の糸引き工女研究資料と宮川・高原川の伝統漁法の展示を行った。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
地域イベント開催助成事業	13,000 (13,000)	12,923 (12,923)	77 (77)	地域の賑わい創出と芸術文化活動の活性化を図ることを目的に「ひだ文化村」一体での様々な世代の方々が文化芸術に興味をもつ事業を行うため、NPO法人ひだ文化村が行う事業に対して助成を行った。 延べ来場者 1,072名
地域文化振興事業補助金 交付事業	1,900 (1,900)	776 (776)	1,124 (1,124)	市内の芸術文化活動の振興や地域に伝わる伝統文化の継承活動を支援するため、団体が行う事業に要する経費の一部について補助金を交付した。 ・飛騨市文化協会（飛騨市芸能祭等） ・飛騨市市民音楽祭実行委員会
地域伝統芸能継承事業助成金 交付事業	1,000 (1,000)	500 (500)	500 (500)	地域伝統芸能の保護や継承者育成を目的に成果発表を開催する団体に対して助成金を交付した。 河合町歌舞伎保存会は10月に公演を行い163名の参加があった。今回は高山市や岐阜市からの来場もあり交流人口の増加につなげることができた。 藤橋会は当初9月に江馬館にて能の公演を予定していたが、コロナ第7波の影響により中止となった。
文化協会活動振興交付金 交付事業	2,565 (2,565)	2,476 (2,476)	89 (89)	飛騨市文化協会の活動を支援するために交付金を交付した。

荒垣秀雄氏の功績顕彰事業 (作文コンクールの開催)	316 (316)	280 (280)	36 (36)	飛騨市出身で名誉市民である故荒垣秀雄氏が残した功績を後世に伝える 目的で「第5回荒垣秀雄顕彰作文コンクール」を開催した。今年度のテーマは、「私の夢」。応募数は435作品で去年の5倍近く増加した(前年度91 作品)。今年度の表彰式は神岡町公民館で実施し、YouTubeによるオンライン 配信も行った。また、第2部として「天声人語」を執筆されていた朝日 新聞社記者による講演会も開催した。入賞作品を市のホームページと Facebookに掲載し、飛騨市電子図書館でも作品を公開した。
街なかポケットミュージアム 運 営 事 業	千円 1,310 (0)	千円 1,167 (0)	千円 143 (0)	令和元年度に開催された飛騨市美術館企画展「愛しの糸引き工女展」を もとに糸引き工女の真の物語をより多くの方に知ってもらえる資料紹介を 令和3年11月から令和4年9月まで開催した。(来館者数:2,599名) 令和4年12月からは令和2年度に開催された企画展「宮川、高原川の 伝統漁法・魚食文化展」のパネルや「飛騨みやがわ考古民俗館」に収蔵し ている漁具を紹介した。(来館者数:631名)

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額 21,126千円】

今年度は、新型コロナウイルスによる第7波の影響があった夏のイベントは縮小や中止となったが、その他は感染症対策をしっかりと取ったうえで実施してもらい、市民が芸術文化を気軽に楽しんでもらえる機会の提供に努めた。

荒垣秀雄顕彰作文コンクールは募集の開始を早めるとともに、各学校へ伺っての直接応募依頼、インターネットで無料のコンペサイトへの掲載、朝日新聞社による出前授業などの取り組みにより例年より大幅に応募数が増加した。次年度も、引き続き応募数増加につながる工夫を検討していきたい。

街なかポケットミュージアムは飛騨古川さくら物産館を訪れる観光客も入館され多くの来館者があった。展示内容の宮川・高原川の伝統漁法の展示については、令和2年度に市美術館企画展として開催した「宮川、高原川の伝統漁法・魚食文化展」のパネルと「飛騨みやがわ考古民俗館」に収蔵している漁具の展示が主だったが、漁業関係者にも協力いただきギャラリートークなどのイベントも開催できた。令和5年度の夏には展示内容を変更する予定であり、既存の資料を活用して魅力ある展示ができるよう検討する。

メディア掲載実績：飛騨かわい地歌舞伎公演 10月24日 中日新聞、10月26日 岐阜新聞

荒垣作文コンクール 7/16朝日、1/13朝日、1/18岐阜、2/17朝日、2/26朝日、2/28中日

街なかポケットミュージアム「宮川・高原川の伝統漁法の展示」 中日12/9 「伝統漁法ギャラリートーク」 岐阜2/14

## 5 文化交流センター管理・運営事業(決算額 61,750千円)

事業番号21 評価 A

地域活性化と人的交流の促進及び市民の芸術文化意識の向上を目指し、指定管理者と綿密に連携し適切な施設の運営管理に努めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
飛騨市文化交流センター 管理・運営事業	千円 61,964 (61,964)	千円 61,750 (61,750)	千円 214 (214)	飛騨市文化交流センターは、指定管理者が市内の文化交流の中心施設として運営し、貸館業務や魅力ある各種文化イベントを開催した。 主な設備の修繕として、空調設備の機器修繕、小ホールプロジェクター修繕、非常用発電機の整備等を実施することで、安定した施設の運営が図られた。

(評価と課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額 65,611千円】

文化交流センターは、NPO法人ひだ文化村が指定管理者として選定され、5年の指定期間の内の5年が終了した。コロナ禍の影響も落ち着いてきたことから、感染対策を十分に施したうえでイベントは実施するとともに貸館利用サービスは継続し、市民が文化芸術活動を行う拠点としての運営を行った。

## 5 スポーツ振興課

### ① スポーツ振興係・教育振興係

#### 総括事項

約2年続いたコロナ禍も令和4年度においては徐々に規制が緩和され、通常の大会及びイベント等の開催も常態化してきた。市では「運動、スポーツの動きを止めない」を目標に掲げ、特に屋外における市民の健康づくり、生きがいづくりにつながる生涯スポーツの推進に力を入れ、クアオルト健康ウォーキングの定期開催やノルディックウォーキング事業のイベント開催を実施した。また、子ども達のスポーツ応援プロジェクトとして新たな交付金制度を創設し、その活躍を広く市民に伝えるための情報誌「スポーツひだ」を発刊したほか、子どもの遊び場を確保する取り組みとして、令和4年度は古川町、神岡町の2箇所でスケートボードエリアの実証実験を実施し、市街地における候補地の検討とアンケート調査を行った。更に3年目を迎えるスキー振興事業では、スキー場リフト無料化補助、スキーレッスン補助、小学生のスキー教室に於けるインストラクター派遣委託が順調に成果を上げ、多くの子ども達の利用があった。これによりコロナ禍における運動不足解消と郷土スポーツを推進することができた。また、毎月調整会議が必要な一部のスポーツ施設を対象に導入した公共施設予約管理システムについては、会議に足を運ぶことがなくなり、利用者の利便性が向上した。

山之村だいこんマラソンに代わる大会として開催を計画した「全国中学生クロスカントリー大会」は、参加資格、募集方法などの要因から参加者が振るわず、止む無く中止となった。

一方、スポーツ環境の整備では、宮川スポーツ公園のトイレ改修工事を始め、増島公園グラウンドLED照明改修工事やサン・スポーツランドふるかわ野球場の内野修繕のほか、飛騨かわいスキー場関連では第4リフトサイリスタ更新(R5繰越)、中古圧雪車購入、トラック購入、駐車場舗装工事など、子どもから高齢者まで安心・安全に利用できる施設の整備を行った。

- 1 スポーツ推進事業
- 2 体育施設管理運営事業
- 3 飛騨市屋内運動場整備事業
- 4 公共施設予約管理システム導入事業
- 5 スキー振興事業
- 6 スケボー&BMXエリア設置事業

#### 施策の概要

##### 1 スポーツ推進事業（決算額 25,876千円）

事業番号22 評価 B

スポーツの推進を図るため、飛騨市スポーツ推進委員を委嘱し、地域スポーツの活性化の中心となって活動してもらうことで全市的にスポーツを普及促進



していく。また、各種スポーツ団体においても、指導者育成やスポーツ行事の支援を行い、スポーツによる地域の活性化を図るとともに、新たに創設したふるさと納税を財源とした子どもたちのスポーツ応援事業を推進する。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
スポーツ推進委員活動事業	2,116 (2,116)	1,484 (1,484)	632 (632)	活動実績（スポーツ推進委員 総員19名） 飛騨地区前期スポーツ推進委員研修会（6月18日 参加7名） 山之村ノルディックウォーキング教室（6月26日 参加23名） モルック教室（9月4日 参加11名） 飛騨市民登山（10月2日 参加36名） 飛騨市スポーツ推進委員研修会（10月3日 参加9名） 飛騨地区後期スポーツ推進委員研修会（11月5日 参加7名） 全国スポーツ推進委員研究協議会（11月18日、19日→中止） 岐阜県スポーツ推進委員研修大会（12月17日 参加11名） 東海四県スポーツ推進委員研究大会（2月3日 参加5名）
スポーツ団体育成事業	9,550 (9,550)	6,899 (6,899)	2,651 (2,651)	補助団体 飛騨市スポーツ協会、飛騨市スポーツ少年団、飛騨市レクリエーション協会、飛騨市軟式野球連盟、飛騨市グラウンド・ゴルフ協会
ジュニアスポーツ応援事業	6,500 (900)	4,694 (446)	1,806 (454)	スポーツ活動充実交付金事業交付団体 飛騨市スポーツ少年団（20団体336名）、中学校スポーツ部活動（14部活275名） スポーツ情報誌「スポーツひだ」発刊（10月、1月～3月 計4回）
スポーツ行事推進事業	8,056 (2,486)	6,971 (3,071)	1,085 (144)	JABA高山市長旗・飛騨市長杯社会人野球大会（8月8日から4日間 8チーム） 宝くじスポーツフェアドリームベースボール（10月16日 参加131名、来場者1,214名） F C岐阜子どもサッカー教室（11月19日 参加 16名、11月23日 参加 32名） 飛騨市スポレク祭（10月15日 参加約300名） インクルーシヴ・スポーツ学童（10月～3月 神岡18回参加282名、古川（試行）8回参加236名） 飛騨駅伝競走大会（11月20日 参加46チーム230名余り） ふれあいソフトミニバレーボール大会（12月5日→中止） 飛騨市ふるかわ元旦マラソン（1月1日 参加約1,030名） 剣道錬成会及び飛騨かわい剣道アカデミー（中止） オリンピック・トップアスリート交流事業（4/3陸上：参加24名、8/4水泳：参加24名、8/28ソフトボール：参加65名）

ウオーキング 推進事業	6,718 (0)	5,828 (0)	890 (0)	ノルディックウォーキング公認指導員資格取得補助20千円/名 (11月20日 受講者 1名) 推進教室1回開催(10月18日 神岡のみ) クアオルト健康ウォーキング実践指導者養成講習(7月3日、7月18日～19日、 8月29日～31日 受講者 2名) 県内クアオルト推進首長ミーティング(10月11日 参加 17名) 飛騨神岡ツーデーウォーク(中止) 第4回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2022(11月7日 中止) 第14回北アルプス展望スノーシュー&テレマークスキーツアー(2月26日 参加13名)
----------------	--------------	--------------	------------	---

(評価)

スポーツ推進委員活動事業については、令和4年度に組織改編を行い、新たな枠組みでスタートを切った。令和3年度より普及を進めている軽スポーツ「モルック」は、5月に軽スポーツ体験、9月にモルック教室を開催するなど、新たな軽スポーツの普及に努めた。また、飛騨地区研修会や東海四県スポーツ推進委員研究大会にも積極的に参加し、他団体との交流を深めた。

ジュニアスポーツ応援事業においては、新たに創設した飛騨市スポーツ活動充実交付金に多くの対象団体から交付申請があった。遠征費や備品購入など、交付の対象経費の自由度の高さもあり、各団体の活動支援と保護者の負担軽減を図ることができた。また、スポーツ情報誌「スポーツひだ」を4回発行し、子どもたちの活動や活躍を広く市民へ伝え、子どもたちの励みとスポーツに対する機運醸成を図った。

スポーツ行事推進事業では、宝くじスポーツフェアドリームベースボールを始め、FC岐阜子どもサッカー教室、飛騨市スポレク祭や飛騨市ふるかわ元旦マラソン等、市民参加型のスポーツイベントの開催に努めたほか、インクルーシヴ・スポーツ学童では、新たに古川地区で実証実験を行った。ウォーキング推進事業では、市の助成制度を活用したノルディックウォーキング公認指導員の資格取得に1名の方が受講、更なるノルディックウォーキング事業の充実が図られた。なお、第4回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2022は雨天により中止となった。

クアオルト健康ウォーキングでは、令和4年度ガイド協会独自のコースを新たに2コース設置、定例ウォーキングも順調に利用者が増え、対前年比で約1.2倍の伸びとなり、過去最高の利用者となった。更にクアオルト健康ウォーキング実践指導者養成講習に2名が受講し見事認定されたため、今後の利用者増及び普及・促進に更なる期待がかかる。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：36,157千円】

令和5年5月、新型コロナの2類から5類への移行を機に、主に屋外での事業やイベントを重点に正常化させていく必要があり、中でも飛騨市の魅力を伝える取り組みとして、令和4年度に開催できなかった自然の地形を利用したクロスカントリー大会を、不調に終わった要因、反省点などを十分踏まえ開催するほか、第5回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2023の継続開催、クアオルト健康ウォーキングにおける新たな独自コースの追加認定調査、他市町村との交流や指導員資格養成講習も並行して進めながら、賑わいの創出と健康をキーワードとしたスポーツ・ウォーキングへの取り組みをより一層、市内外に広く浸透させていく。

新たに創設した飛騨市スポーツ活動充実交付金については、対象となる団体すべてが交付金申請を行えるよう更なる周知を行っていくほか、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を創出する取り組みとして、令和2年度より神岡地区で実施している「インクルーシヴ・スポーツ学童」を、古川地区におい

でも令和5年度より本格実施とするが、児童を集めて学習させる場所がないという問題があり、検討をする必要がある。

- メディア掲載実績：
- ・「親子で軽スポーツ」飛騨市スポレク祭 10月19日 中日新聞他
  - ・飛騨に健康ウォーキング 新認定コース 「小島城」住民散策し歴史体感 5月24日 中日新聞他
  - ・スケボーエリア実証実験 飛騨市、愛好者増加見込み施設検討へ 神岡、古川町の屋外駐車場一部 利用状況や騒音調査 5月28日 岐阜新聞
  - ・軽スポーツに親しむ 飛騨市古川町でスポレク祭 6月11日 岐阜新聞
  - ・ボールあっちこっち楽しく16コース回る 神岡でGゴルフ大会 7月4日 中日新聞
  - ・53人が楽しくプレー 神岡で町民Gゴルフ 10月4日 中日新聞
  - ・新たにモルックも多彩な種目楽しむ 飛騨市スポレク祭 10月16日 中日新聞他
  - ・プロ野球OB vs 飛騨市選抜チーム 夢の対戦 思い出宝物 前原、達川さんらに拍手 10月17日 岐阜新聞他
  - ・たすきリレー 声援が力 飛騨駅伝 男女計6部門で競う 「楽しんで走る」力強く選手宣誓 飛騨高山おとな陸上部Aの吉野さん 最多7チーム出場 古川中が飛騨市長賞 11月22日 岐阜新聞
  - ・飛騨市、宿泊者にリフト券助成 市内の児童生徒 無料に 12月20日 中日新聞
  - ・飛騨かわいスキー場、開設40年 節目の今季、開幕告げる 12月27日 岐阜新聞
  - ・寒さなんの、市民力走 飛騨市で元旦マラソン 1月6日 岐阜新聞
  - ・レポート飛騨 住民向け ゲレンデを健康増進施設に 観光拠点 誘客促進へリフト代を助成 スキー核に飛騨市振興 1月15日 岐阜新聞
  - ・インターハイ、国体スキーに闘志 飛騨神岡高の5人、市役所訪問 2月2日 岐阜新聞他
  - ・飛騨かわいスキー場 3季ぶり感謝祭 尺玉花火、ゲレンデ照らす 2月14日 中日新聞
  - ・スポーツ指導者の役割強調 飛騨 岐阜協立大・高橋教授が講演 2月15日 中日新聞
  - ・新雪の森 散策「楽しい」 神岡・流葉山で体験会 スノーシューなど着用 冬レジャー満喫、全員7キロ完歩 2月28日 中日新聞

## 2 体育施設管理運営事業（決算額 79,298千円）

事業番号23 評価 A

市民が真摯にスポーツに勤しめるよう、体育施設を適正に管理運営し、必要なニーズに応じて改修等を行うことで安心安全な体育施設を維持管理していく。

事業名	現計予算額	決算額	決算未済額	事業の概要
体育施設管理事業	千円 73,943 (60,977)	千円 66,315 (53,896)	千円 繰越額 3,458 (3,458) 不用額 4,170 (3,623)	体育館等 18 施設（うち指定管理5施設）の維持管理 グラウンド 18 施設（うち指定管理3施設）の維持管理 スキー場 1 施設（うち指定管理1施設）の維持管理 かわいスキー場公用車購入 1,539千円 かわいスキー場圧雪車（中古）購入 4,620千円 桜ヶ丘体育館トレーニングマシン購入 1,199千円
社会体育施設の維持改修	32,534 (4,744)	12,983 (△14,411)	繰越額 18,920 (18,920) 不用額 631 (235)	サン・スポーツランドふるかわ他内野修繕工事 1,045千円 宮川スポーツ公園トイレ改修工事 3,245千円 増島公園グラウンドLED照明改修工事 1,650千円 かわいスキー場駐車場舗装修繕工事 2,805千円 かわいスキー場圧雪車点検整備 2,266千円 かわいスキー場第4リフトサイリスタ更新工事（繰越）18,920千円 その他 1,972千円

(評価)

各施設の定期的な巡回及び、市民要望等による施設修繕を行ったほか、飛騨市スポーツ施設整備計画に基づき、宮川スポーツ公園のトイレ改修工事をはじめ、かわいスキー場駐車場舗装修繕工事等を実施。また、施設備品においては、かわいスキー場圧雪車（中古）及び作業用トラックの更新を始め、桜ヶ丘体育館トレーニングマシンの追加購入等を行い、施設における作業効率の向上を図ったほか、利用者のニーズに対応した設備の導入に努めた。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：157,662千円】

コロナ禍における体育施設の使用低下の3年間は、市民の健康づくりや生きがいづくりに繋がる取り組みを停滞させたばかりでなく、グラウンドや体育館の定期的な整備も停滞させた結果、より施設の老朽化に拍車がかかる結果となっている。こうした事実を踏まえ、令和5年度に於いては各施設の定期的な点検を行い、修繕整備の徹底を行うことで、徐々に施設をコロナ前の状態に戻す。併せて大型改修等については、スポーツ施設整備計画に基づき、順次、施設の改修工事やトイレ洋式化工事を進める。

### 3 飛騨市屋内運動場整備事業（決算額 49千円）

事業番号24 評価 B

飛騨市スポーツ施設整備計画に基づき、市民等からの要望が多い屋内運動場の新設について検討するため、関係団体等からなる飛騨市屋内運動場整備検討委員会を開催し、令和4年度の事業報告を行ったほか、施設規模、構造、付帯施設及び事業費等について、令和3年度に引き続き、助言及び提案を頂いた。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
飛騨市屋内運動場整備事業	11,783 (83)	49 (49)	11,734 (34)	委員会の開催状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・飛騨市屋内運動場整備検討委員会（委員8名）</li> <li>・委員会2回開催（7月13日、10月31日）</li> <li>・飛騨市サン・ビレッジ神岡視察（9月13日）</li> </ul> 屋内運動場新築工事設計業務 11,715千円（契約解除） その他 49千円

（評価）

令和4年度、飛騨市屋内運動場整備検討委員会を2回、現地視察を1回開催。昨今のロシアによるウクライナ侵略や物価高騰等により、当初計画していた建築事業費での建築が困難であることが判明、再度事業費に見合った施設規模について検討をいただき、今後の建設に向けての統一的な意見を伺った。なお、令和3年度からの繰越事業となっていた屋内運動場新築工事設計業務については、請負側の事情により契約が解除となった。

（課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額：24,075千円】

日々、建設事業費が高騰している中、いかに限られた事業費で各種団体の要望に沿った建物を作る事ができるかが課題である。また、請負側の事情により契約が解除となった設計業務についても改めて契約を締結する必要があり、早期に設計業務に着手し、建設規模など最終的な検討委員会等での意見を聴取し、令和6年度の着工に向けて業務を進める。

#### 4 公共施設予約管理システム導入事業（決算額 1,254千円）

事業番号25 評価 A

利用希望が集中するスポーツ施設などを対象として、毎月開催される調整会議や利用者間の平等性を確保することと、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者が一堂に集まる機会の削減を目的とし、令和3年度公共施設予約管理システムの導入を行い、令和4年度4月より利用者の多いスポーツ施設7施設の運用を開始した。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
公共施設予約管理システム導入事業	1,260 (1,260)	1,254 (1,254)	6 (6)	運用開始施設 古川町トレーニングセンター、サンスポーツランドふるかわ、森林公園グラウンド、杉崎公園グラウンド、古川中（体育館・グラウンド）、古川小（体育館・グラウンド）、古川西小（体育館・グラウンド） 施設予約管理システム使用料 1,254千円

(評 価)

インターネット申請の導入を求める利用者ニーズに応え、パソコンやスマートフォンから直接入力でき、繁忙期における予約集中や重複時の自動抽選、帳票管理、多様な決済手段など、十分な機能を備えた予約管理システムを導入、利用者の利便性及び平等性を図ったほか、コロナ禍における安心・安全・3密の回避に努めた。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：2,803千円】

令和4年度より運用開始となった予約管理システムでしたが、スマートフォンでの予約状況が確認できない等、システム上のトラブルが複数回発生した。また、管理者側に於いて、システム導入初年度であった為、事前に管理者研修を実施したものの、システム操作の認識不足により十分使いこなすことが出来ず、利用者に迷惑を掛けてしまったことから、今後はシステム開発業者と調整を図ると共に管理者に対するシステム操作の指導を行いながら、更に利用者にとって使いやすいシステムの構築と、他の公共施設への適用拡大を積極的に行う。

## 5 スキー振興事業 (決算額 13,365千円)

事業番号26 評価 A

市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しめるよう、従来行ってきたリフト券の購入補助に代えて、令和2年度に新型コロナ需要喚起対策「Go to Skiキャンペーン事業」として小中学生を対象としたスキー場リフト無料化を実施。更に令和3年度は高校生を追加し、事業拡大を図りながら令和4年度も事業を継続し、郷土スポーツとして市民の誰もが親しみを持ってスキーを楽しみ、ふるさとの自慢とじてもらえる取り組みを行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スキー振興事業	千円 15,000 (0)	千円 13,365 (0)	千円 1,635 (0)	小学校スキー教室講師派遣委託料 988千円 小中学校野外活動振興補助金 12,377千円 ・リフト無料化補助 12,015千円 ・スキーレッスン補助 362千円

(評 価)

令和3年度に引き続き、市内小中高生を対象に実施した市内スキー場におけるリフト券の無料化について、毎年実施している市内小中高生を対象としたアンケート調査においても、利用者数が令和3年度並みとなるなど、本事業が定着しているものと思われる。更に幼児から中学生までのスキーレッスン補助並びに小学校スキー教室へのインストラクター派遣委託についても順調に実績を伸ばしており、市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しんで頂けたほか、スキー場全体の集客にも繋がった。

(課題及びその対応策)【令和5年度予算計上額：15,000千円】

令和4年度の実績から、本事業に於ける利用者数はある程度の上限に達しているものと推測されるが、今後は3年間行ったアンケートの調査結果を分析し、各スキー場の指定管理者へ情報共有するとともに、アフターコロナでの事業効果検証や、スキー教室でのスキー用具レンタル無料化など、常に市民ニーズに

沿ったサービスの提供や施設整備を検討していく。

6 スケボー&BMXエリア設置事業（決算額 733千円）

事業番号27 評価 A

東京オリンピックでのスケートボード競技における日本人選手の活躍などから、市内においても子どもたちを中心にスケートボードエリアの設置を希望する声がアンケート調査においても4割を超えるなど、こうしたニーズに対応するため、市内候補地4箇所（古川2箇所、神岡2箇所）において実証実験を実施した。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
スケボー&BMXエリア整備 事業	1,000 (0)	733 (0)	267 (0)	物品借上料（実験エリア簡易フェンス） 285千円 備品制作材料費（実験エリア設置セクション制作材料費） 448千円

（評価）

実証実験においては、有識者からのアドバイスなども参考にしながら各候補地にセクションを設置し、利用者、近隣住民、一般に対して利用面、騒音などに関してアンケート調査を実施。利用者等のニーズ、騒音に関する調査などを踏まえ、令和5年度に古川地区（宮川河川敷）・神岡地区（夕陽ヶ丘駐車場）にそれぞれ1箇所エリアを整備することとした。

（課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額：5,000千円】

実証実験におけるアンケート調査では、スケートボードエリアにおいて重要視する事項として、路面状態が最も高く、神岡地区のエリア整備においては排水なども含め、利用者が満足できる滑走路面を整備していく。また、安全性に関する意見・要望も多くあり、同エリアの利用は原則「自己責任」であるものの、子どもの利用に当たっては保護者の同伴を求めるなど、エリアに設置する利用上の注意看板の作成にあたっては、安全面において十分配慮した内容とする。